

日 時 平成31年4月11日(木)午後2時

場 所 防府市役所1号館3階南北会議室

1 議 事

○ 審議事項

(1) 地域密着型サービス事業所の公募選定について

資料1に沿って、地域密着型サービス事業所の公募選定について説明した。

A委員 1ユニットの事業所を2事業所設置するというので良いか。

事務局 そうです。

○ 報告事項

(1) 平成31年度の新規事業についてについて

資料2に沿って、平成31年度の新規事業についてについて説明した。

B委員 離職率が高いという結果が出ているが、同じ職種として転職しているということか。または他業種への転職があるのか。

事務局 今回の調査では、辞めた方がどこに転職したかという聞き取りは行っていない。自由記載欄において、その事業所を辞めても介護職を辞めないような取組が必要ではないかという意見があった。非常に重要な意見だと考えており、支援する方法がないか検討したい。

C委員 人材不足への対応案として、インセンティブの検討とあるが具体策はあるか。

事務局 これは自由記載欄にあった意見だが、防府市の実情として軽度の通所利用者の悪化率が全国平均より若干高いため、利用者の状態等における成果に対するインセンティブというのがあっても良いのではないかと考える。難しいかもしれないが検討して良いのではないかと考える。

D委員 全県的な傾向だが、若い人口が減っている状況で、新しい介護人材を作るとするのは難しい。他県では都会から介護職医療職を呼び寄せて定住させる取組を行っている。新規の介護職を増やすと同時にこうした取り組み

も必要ではないか。早め早めに対策を取るべきではないか。

事務局 他の地域から介護職を呼び込むという施策を多市町が行っていることは把握しているが、今回の検討案にはあえて入れていない。それは事業所の方の42%が「離職率が高い」と言っている状況で、他市町村から介護人材を入れて、すぐ離職されても困る。まずは、現在防府で働いている介護職の労働環境整備が先ではないかと考える。

D委員 離職率が高い要因の調査をお願いします。

事務局 労働環境の改善について勉強していきたい。

E委員 市内の介護福祉士養成校での進路状況や外国人の受入れ状況とその就業状況が分かれば教えて欲しい。

F委員 一昨年はベトナムから1名、昨年は中国から2名とベトナムから5名、今年はスリランカから2名の留学生を受け入れている。今年卒業したベトナムからの留学生は、市内の社会福祉法人で働いている。今後5年間働いて、できれば母国に帰って働きたいと考えているが、ベトナムには介護施設がなく、介護サービスや介護の教育がない。介護の先進国である日本で介護を学んで、施設を作りたいという思いを持っている。

スリランカの学生は市内の介護施設の協力のもと、休日にアルバイトをして現場や日本語や専門用語を学んでいる。日本で5年以上働く、意志の強い人を受け入れている。山口県で働きながら学ぶことができる環境ができるよう、施設と連携して取り組んでいる。

卒業生のうち防府市内で就労する数については、県外に就職する人はほとんどいない。入学する学生は20から26名で、5～10名が防府市内で就労している。

(2) 地域包括支援センターの運営状況について …資料2

資料3に沿って、地域包括支援センターの運営状況について、各地域包括支援センターのセンター長が説明した。

G委員 地域包括支援センターとはこれまでも様々な事例と一緒に関わり、成果を出してきた。民生委員にとって非常にありがたい存在だ。

事務局 ありがとうございます。今の言葉で職員一同、これからも頑張れると思う。地域の皆様のサポートなしではやっていけない業務なので、今後ともサポートしていただければと思う。

H委員 地域における民生委員の役割は重要だが、行政による民生委員への研修会の実施を要望する。また、地域包括支援センターの周知が進んでいないという報告があったが、どういうデータから周知が進んでいないと判断しているのか。

事務局 高齢者保健福祉計画策定前に実施した圏域別ニーズ調査において、郵送等によって調査を行った。その中で、認定を持っている方については周知されているが、一般の方、認定を持っていない方については半数程度しか周知されていなかった。

H委員 大切なことなので、しっかりと周知してほしい。

(3) 地域密着型サービス事業所の指定更新について

資料4に沿って、地域密着型サービス事業所の指定更新について説明した。

意見なし

○ その他

次回の防府市高齢者保健福祉推進会議を7月下旬から8月中旬に開催することを案内した。

以上